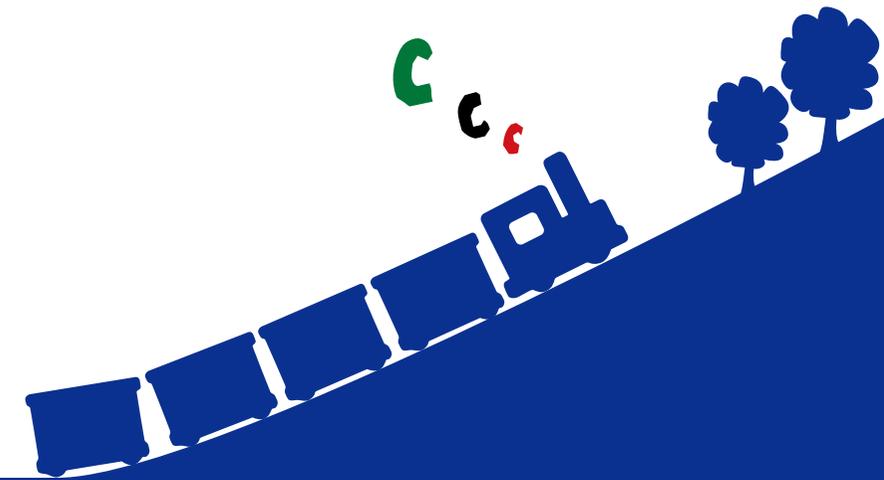
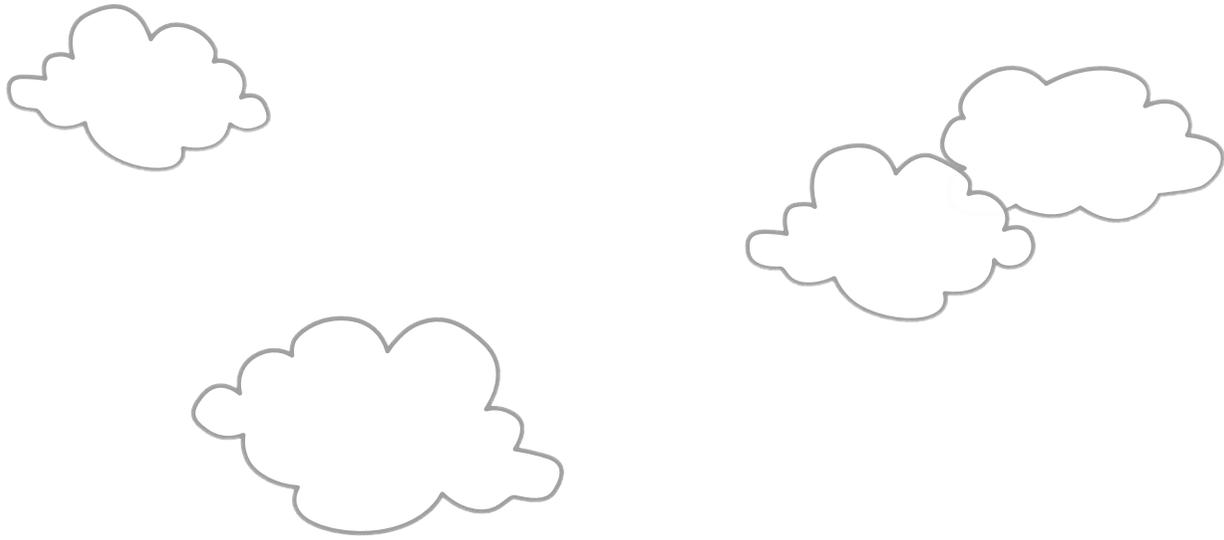


2015



 **愛知淑徳大学**
コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス
〒480-1197
愛知県長久手市片平二丁目9
TEL (0561) 62-4111 (代表)

星が丘キャンパス
〒464-8671
名古屋市千種区桜が丘 23
TEL (052) 781-1151 (代表)

CCC

活動報告書

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター



この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

2015年度CCC活動報告書
発行：愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

コミュニティ・ コラボレーションセンター (CCC) とは

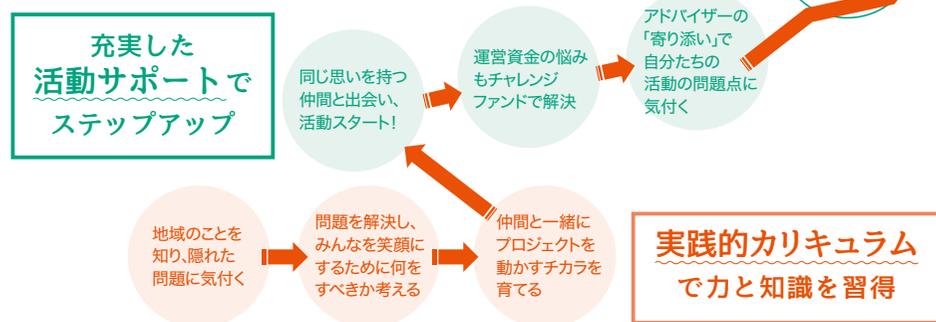
広い視野と行動力を身につけ、社会人基礎力の向上をめざします。

「地域に根ざし、世界に開く」を基本姿勢に、CCCは学生一人一人が地域で活躍し、社会に貢献できる人材になることをめざしています。ボランティアに留まらず、学外のさまざまなコミュニティとの連携を強め、「実践的カリキュラム」と「活動サポート」の両軸で学生たちの意欲や思いを実践的な活動に結びつけています。

CCCの学生育成ビジョン

みんなの「笑顔」で地域を、そして社会を変えよう。

広い視野と行動力を養う実践的カリキュラムと、スタッフの温かいサポートで心優しい、「素敵なおトナ」にブラッシュアップ!



CCCの特色

1 「地域や社会に貢献したい」という 思いに応える実践的カリキュラム

CCCでは、企業が実際に抱える課題をグループで解決していくPBL(課題解決)型講義、ボランティア活動やまちづくりに関する基礎知識を学ぶ講義など、社会貢献活動にすぐ役立つ実践的なカリキュラムを用意しています。



2 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

地域の行政機関、企業、NPOなどから「国際交流・協力」「青少年育成」「まちづくり」「福祉」「環境」に関するボランティアの依頼が届きます。CCCでは、学生の思いに耳を傾け、一人一人に合わせたボランティア活動を紹介・支援しています。



3 学生が企画・運営する地域活動をサポート

地域の課題を自ら発見し、解決するために、約20以上の学生団体が活躍中。活動に行き詰った場合はCCCスタッフが寄り添い、一緒に課題の解決をめざします。また、学生たちの熱い思いを資金面で支援する制度「チャレンジファンド」も設けています。



目次

- 1. 2015年度 特別報告
学園創立110周年・愛知淑徳大学開設40周年記念行事
「コラボメッセ」…………… 4・5
- 2. 2015年度 活動実績…………… 6・7
- 3. センターの取り組み…………… 8
 - 3.1. カリキュラム…………… 8・9
 - 3.2. 活動サポート…………… 10
 - (1) マッチング…………… 11
 - (2) 自主活動の支援…………… 12・13
 - (3) チャレンジファンド…………… 14・15
- 4. 学生スタッフの活動…………… 16・17
- 5. センター長より 2015年度全体講評…………… 18
- 6. 当センターへ初めてボランティアを依頼いただく方へ… 19

Information

2016年2月
「CCC labo」開設

**みんなの笑顔で、地域を変えよう!
活動の様子を絶賛公開中!**

本書にて紹介しきれなかった学生たちの活動の様子を、特設サイト「CCC labo」にて発信しています。ぜひご覧ください。



←QRコードまたは CCC labo nagoya で検索!

1 学園創立110周年・愛知淑徳大学開設40周年記念行事 コラボメッセ

2015年10月10日(土)、CCCの学生スタッフ(P.16・17参照)が中心となり、本学星が丘キャンパスにて、行政機関、企業、NPOなど(以下、CCC連携団体)の皆様と学生が一堂に会するイベント「コラボメッセ」を初めて開催しました。

CCCに関係する学生団体25組とCCC連携団体25組が参加。活動内容を紹介し合ったり、グループワークを通して交流することで、学生たちは多くの刺激を受け、自分たちの活動の発展につながるヒントを見つけました。

第一部 活動発表



学生団体とCCC連携団体が、それぞれの活動を紹介するブースを出展し交流しました。

初めての試みのため、実施前には「学生からCCC連携団体へ積極的な働きかけができるか」と不安もありましたが、進んで話しかけたり、笑い声が飛び交う様子が会場中で見られました。

また、ここでの交流を機会に、新たな連携が生まれ、CCC連携団体が主催するイベントに学生が参加するなど、新たな繋がりも生まれました。

第二部 交流会「夢のコラボ企画をつくろう！」



学生団体とCCC連携団体が23組のペアとなり、グループワークを行いました。

テーマは「夢のコラボ企画をつくろう!」。予算、時間などの現実的な問題は考慮せず、双方が協力し合うことで実現できるようなプロジェクトについて検討しました。

生まれた企画は「擬音語は国境を超える(わらべ歌で国際理解)」、「食育BBQ(自分たちで収穫、自然の恵みに感謝)」など。終了後、学生とCCC連携団体とで「現実になりたいね!」という会話が多く聞かれました。

夢のコラボ企画 が実現!

ちゅちゅる×瀬戸信用金庫 「すみれの苗 贈呈式 in あいあいの家」



2016年3月10日(木)、児童発達支援を行っているNPO法人リビングサポート「あいあいの家」に通う子どもたちに、すみれの苗を50株奇贈しました。

コラボメッセ終了後、「この企画を絶対に実現したい!」と思い、すぐに瀬戸信用金庫さんに連絡をしたことを今でも覚えています。何度も打合せを重ね、無事に本番を迎えました。

当日子どもたちが信用金庫職員の方から苗を受け取る姿には、本当に感動しました。「植栽記念プレート作り」は、子どもたち、信用金庫職員の皆さん、学生が交流しながら、楽しく制作することができました。プレートを飾り、全てが完成した時はとても嬉しかったです。

瀬戸信用金庫 総合企画部 福岡 慎二様の声

コラボメッセを通して、地域のために様々な活動を行う学生たちがいることを知りました。当金庫も地域金融機関として、新しい形での地域貢献に協力できたことを嬉しく思います。

本企画の実現まで、学生たちにとって大変なこともあったと思いますが、無事に実施できたことは良い経験となり自信になったのではないのでしょうか。今後も色々な事に挑戦しながら、将来に向けて成長していきましょう。

今回、学生だけでは達成できないような大きな企画を、企業の方のご支援により実現することができました。慣れない打合せは苦労しましたが、今までの活動の殻を破り、新たなことに挑戦することができ、自分も団体も成長することができました。

福祉貢献学部3年 富樫 慶



・・・学生スタッフの声・・・

コラボメッセで印象的だったのは、笑顔で、真剣に楽しみながら取り組んでいる学生の姿です。

第一部では、緊張しながらも、自分たちの活動やその思いを一生懸命に語る学生や、CCC連携団体のお話を熱心に聞いている学生が多かったです。

第二部では、CCC連携団体と学生の間で活発に意見を交わし、思いの溢れる素晴らしい企画が生まれていました。

コラボメッセは学生にとって、自分達の活動を改めて考えるきっかけになったと思います。また、CCC連携団体の皆様の活動の意味を実感し、「社会を良くしたい」と活動する仲間が多くなることを知る機会となったのではないのでしょうか。

CCC学生スタッフ/交流文化学部4年 藤本 涼子



ご協力いただいた CCC連携団体の皆様



愛知県被災者支援センター、NPO法人アジア車いす交流センター、公益財団法人アジア保健研修所、NPO法人アスクネット、表浜BLUE WALK、公益社団法人スペシャルオリンピックス日本・愛知、瀬戸信用金庫、千種区社会福祉協議会、中日森友隊、(株)デンソー、トヨタ自動車(株)ボランティアセンター、長久手市役所たつせがある課、NPO法人名古屋NGOセンター、「なごや環境大学」実行委員会、名古屋市市民活動推進センター、名古屋市障害者スポーツセンター、名古屋市役所総務局(ナゴ校)、日進市役所市民協働課、社会福祉法人日本介助犬協会、NPO法人ぶくぶくぱーん、NPO法人藤前干潟を守る会、プラザー工業(株)、NPO法人ボラみみより情報局、名古屋区社会福祉協議会、NPO法人レスキューストックヤード

※あいうえお順

CCCは、2016年9月に開設10周年を迎えます。2016年度は10月15日(土)に、10周年記念として「コラボメッセ」を開催予定です。どうぞご期待ください。

② 2015年度 活動実績

●利用状況

CCC登録者人数 3,266人(本学学生の約37%)
利用者数 延べ17,052人

登録 ボランティア活動に参加するためのCCCへの登録
利用者 情報取得、活動の相談、ランチタイム企画参加、ミーティング等で来室する学生

募集型ボランティアへの参加者数*(分野別)

年度	国際交流・協力	青少年育成	まちづくり	福祉	環境	その他	計
2015年度	217	288	158	381	193	170	1,407
2014年度	195	261	200	276	94	183	1,209

*CCC連携団体から募集があったボランティア活動に、CCCを通して申込み・参加した学生を指す。学生による自主活動(P.12・13参照)の活動者数は含まない

産学連携事業

- (株)NTTドコモとの連携
NEXT COMMUNICATION FORUM 2015「オンキャンパスセミナー」の開催
- 瀬戸信用金庫との連携
有志学生が瀬戸市内の幼稚園での「すみれの苗贈呈式」とレクリエーションを実施
- 東邦ガス(株)との連携
学生団体「東邦ガスボランティア」が、ガスエネルギー館にてイベント企画・運営(年3回)
- トヨタ自動車(株)ボランティアセンター・JDRTヨタとの連携
有志学生との共同企画として、独居高齢者を本学長久手キャンパスに招いての交流会を実施

受託事業

- 男女平等パートナーシップ事業
(委託者:日進市)
- 子ども大学につしん講座
(委託者:日進市)
- グリーンマップ作成プロジェクト
(委託者:長久手市)
- 名東区人権尊重のまちづくり事業
(委託者:名古屋市名東区役所)

助成金交付事業

- 公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動基金より助成
学生団体「エコのつぼみ」による竹林整備や間伐材を使用したMy箸作り
- 日本財団学生ボランティアセンターより助成
・学生団体「Vege Gaga」による地産野菜の普及活動(地産野菜を使用した野菜スイーツの開発)と野菜を使用するの食育教育
・学生団体「さらさら☆したら」による過疎化が進む愛知県北設楽郡設楽町の伝統芸能の保存サポートと都市地域への情報発信
- 長久手市たつせがある課より助成
学生団体「チームわんわん」による介助犬普及啓発活動
- 名古屋市白金児童館より助成
学生団体「りんく」による高齢者と児童を繋ぐイベントの企画・運営
- 日進市役所市民協働課より助成(P.13参照)
・学生団体「ういるく」による被災地からの避難児童と日進市在住児童との共同キャンプ
・学生団体「ESDみつけ隊」によるESD推進活動
- 日進市役所福祉課より助成
・学生団体「ちゃっちる」による障がいのある子とない子の交流イベントの企画・運営
・学生団体「ボランティアサークルあじゅあす」による障がいのある子が参加するイベントの企画・運営

●メディア掲載情報(抜粋)

2015年4月24日	中日新聞	学生団体「Na-Gomi」がデザインしたごみ減量キャラクター、公募で名称決定
2015年5月25日	中日新聞	長久手市の小学生と本学学生が、リニモ(東部丘陵線)沿線の自然や環境をまとめた「グリーンマップ」を作成
2015年6月29日	中日新聞	学生団体「ASU element project」が長久手市内の小学生らと英語ゲームで楽しく交流する催し
2015年8月28日	毎日新聞	学生団体「ういるく」が、東日本大震災で愛知県内に避難してきた子どもたちと共に、日進市でキャンプを実施(P.13参照)
2015年10月	広報なごや	学生団体「名古屋コーチンもりあげ隊」が、名古屋市長と対談
2015年10月31日	CBC ラジオ	学生団体「Do Nabe net in あいち」活動紹介
2015年12月11日	朝日新聞	CCCの紹介
2016年2月	広報ながくて	長久手市内一斉防災訓練においてCCCが防災ワークショップを実施(P.17参照)
2016年2月4日	読売新聞	名古屋市名東区委託事業「認知症啓発アクション」活動紹介(P.9参照)

表彰・認定

- 学生団体「ちゃっちる」
第6回「Make a CHANGE Day」奨励賞 受賞

障がい児と健全児が交流するイベントを季節ごと企画・運営している「ちゃっちる」が、Make a CHANGE Day 実行委員会から、その活動を評価され、受賞しました



2015年7月4日 表彰式

- 学生団体「ボランティアサークルあじゅあす」
「国際ソロプチミスト」よりシグマソサエティに認証

障がい者、高齢者との交流を中心に活動している「あじゅあす」が、女性による国際的奉仕団体「国際ソロプチミスト」よりシグマソサエティ(国際ソロプチミストがスポンサーシップを提供する学生の奉仕団体)に認証されました



2015年10月18日 認証式

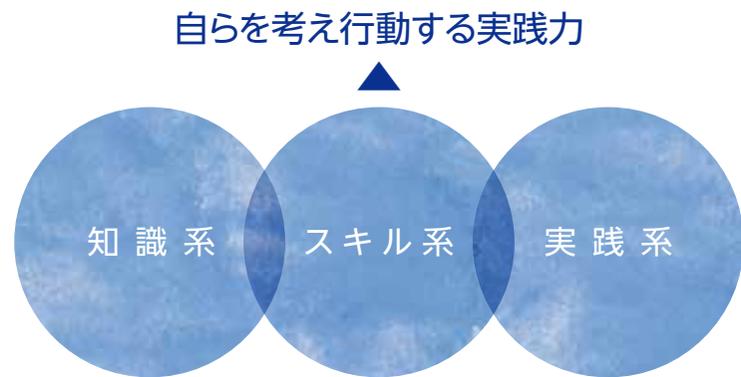
3 センターの取り組み

3.1 カリキュラム

地域へ、未来へ、走り出す。
そのために役立つ知識とスキルを修得します。

ボランティア活動の基礎や、地域とつながるうえで必要となるマナーや支援方法などを学ぶ「知識系科目」、実際に地域とつながり、新しいムーブメントを生み出すプロジェクトに取り組む「実践系科目」など、多様な科目構成で、実際の活動に役立つスキルを修得します。

2015年度は、科目の見直しを実施。
2016年度以降、スキル系科目「企画立案の基礎」、実践系科目「CCCキズナプロジェクト」など、更に学生の社会人基礎力を育てる科目を充実させます。



2015年度CCC開設科目 一覧

●知識系科目

講義名	教員名
入門ボランティア	金治 宏 先生 小島 祥美 先生 橋本 吉広 先生
障がい者支援ボランティア入門	荒賀 博志 先生

●実践系科目

講義名	教員名
コミュニティ・サービスラーニング 企業のCSR	出原 遠宏 先生
コミュニティ・サービスラーニング 多文化共生	金治 宏 先生 日置 陽子 先生
コミュニティ・サービスラーニング 地域福祉	橋本 吉広 先生

障がい者支援ボランティア入門

荒賀 博志 先生

履修生の声



車椅子の階段介助の様子

本講義では、障がいがある人(身体障がい、知的障がい、精神障がい)についての基本的な理解と初歩的な支援技術を学び、障がいがある人への支援ボランティア活動の活性化と充実、共に学ぶ場を作り出していくことを目的としています。

本講義を受講した学生はいろんな学部にも所属していたため障がい者に対する考え方が様々でした。講義を受ける前は、障がい者に対してネガティブな感想が多かったのですが、15回の講義が終わった頃には、「出来ることもたくさんある」「自分たちと同じ」などの障がい者を以前より身近に感じしてくれる感想に変わっていました。講義を通して、まず障が

ボランティア活動で障がい者と関わる際、サポート方法などで苦労することがありました。そこで本講義を履修し、ボランティア活動に活かしたいと考えました。

車椅子介助方法の講義では、車椅子で実際に坂道や階段、自動販売機を利用することが、いかに困難であるかということ、また、方法を学べば誰もが介助できることに気付きました。今後も地域において、障がい者の方々の支援を続けていきたいと思えます。

文学部1年
和田 清花



い者のことを知ることがとても大切であると改めて感じました。知ることからすべてが始まると思います。今後も学部を問わず、いろんな学生にこの講義を受講してもらい、障がいがある人たちの理解を深めることにより、みんなが思いやりを持ってそれぞれの可能性を広げていく視点を持つことができるようになってほしいです。

コミュニティ・サービスラーニング 多文化共生

金治 宏 先生

履修生の声



認知症患者のご本人も参加した学内報告会の様子

認知症になっても、周囲の支援や理解があれば、地域で自分らしく暮らすことができます。つまり、地域に暮らす住民の支え、言い換えれば共に生き合う関係づくりが、認知症の人が安心して暮らせるまちづくりの鍵になるわけです。

そこで本講義では、まず認知症のご本人やその家族、認知症支援の専門家による講義や、地域の認知症カフェや講演会に実際に参加することで得た気付きを材料に、啓発リーフレット「大学生が考える私たちの未来予想図」を制作。次に、そのリーフレットを名古屋市名東区の成人式や「めいとう福

受講する前は認知症についてあまり知識が無かったので「怖い病気」「認知症になったら終わりだ」と思っていました。しかし、認知症について学んだり、当事者の方と話すことによって、その認識が間違っていたことに気付きました。

私たちのアクションを通して「認知症=人生の終わり」ではなく、できることもたくさんあることをより多くの人に知ってもらえると嬉しいです。

人間情報学部3年
今田 有紀



社まつり」で配布。その他、学内での報告会の実施、大学最寄り駅構内ギャラリーでの展示等を通して、認知症を若者に知ってもらおうアクションを展開。共に生き合う関係づくりへの参加を促しました。

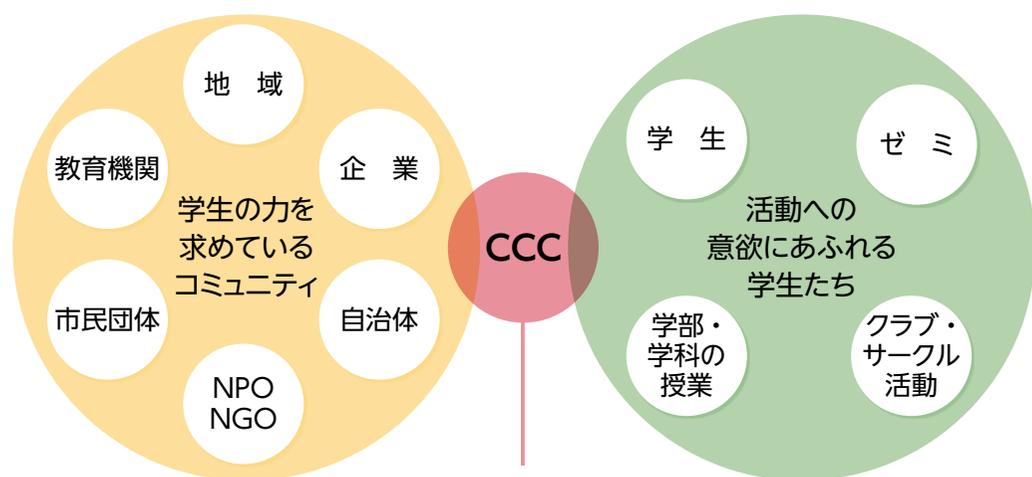
振り返ると、本アクション自体が共に生き合う関係づくりだったと捉えています。学生が多様な立場の人たちとの共同作業の中で感じ取った「違いを共に生きる」(本学の理念)ことの豊かさを、これからも大切にしてもらいたいです。

3.2 活動サポート

みんなが蒔いた「種」を、大きな「樹」に育てたい。
地域貢献、社会貢献活動をきめ細かくサポートします。

「チャレンジしたい!」と自主活動への意欲が芽生えるきっかけは、個人的な興味・関心、学部・学科の授業、ゼミ活動、クラブ・サークル活動など、学生一人一人異なり、活動の目的や内容も多岐にわたっています。そこでCCCは、学生とコミュニティとの出会いをコーディネートし、学生の思いを具体的な活動へと結びつける橋渡しをしています。

特にCCCを拠点に活動する学生団体(P.12参照)には、CCCスタッフが「アドバイザー」として寄り添い、活動を進めていく上で見つかった課題の解決をサポートしています。運営資金をサポートする「チャレンジファンド」(P.14・15参照)のほか、2015年度は学外の地域団体とのコラボレーションを実現する「コラボメッセ」(P.4・5参照)を年1回実施するなど、支援制度を拡充しました。



学生とコミュニティをつなぎ、
さまざまな地域活動を活性化します

サポートの3つの形

- (1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング …… 11
- (2) 学生団体などによる自主活動の支援 …… 12・13
- (3) 【学内助成事業】チャレンジファンド …… 14・15

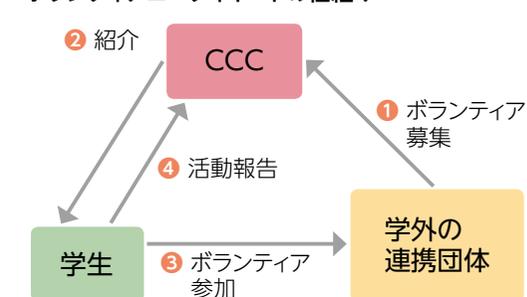
(1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

自主活動に挑戦する学生の初めの一步として、ボランティア活動への参加があります。

CCCでは、ボランティア募集情報の収集、学生への紹介、学生スタッフらによる窓口相談などを通して、マッチングを行っています。

ボランティア募集情報は、センターでの掲示のほか、ひと月に2回、全学生に電子発信。活動分野は、国際交流・協力、青少年育成、福祉、環境、まちづくりなど様々です。2015年度は、延べ1,407人が活躍しました。

ボランティアコーディネートの仕組み



国際 JENESYS 2015 タイ派遣プログラム

連携先：一般財団法人JICE



現地での発表の様子

外務省の派遣により、10日間タイを訪問しました。現地では政府機関を訪問。先進国としての日本の役割と、国際協力を通じた両国の関係を学びました。また、タマサート大学やタイ商工会議所大学では、学生と交流したり、互いの母国の魅力を発表し合うことで、両国の良さを知り友情関係を深めました。

このプログラムに応募する際、合格できるか、英語で発表ができるかなど、大きな不安がありました。「大学生の間にやれることは全部やる!」という自分のモットーを大切に、無事にやり遂げることができました。大きな挑戦でしたが、これからは勇気を出して1歩踏み出していこうと思います。

文学部2年 幅 琢真



福祉 独居老人とのふれあい交流会

連携先：JDRトヨタ (トヨタ自動車販売従業員によるボランティアサークル)



ハンドマッサージの様子

12月13日(日)長久手キャンパスに、豊田市にお住まいの一人暮らしの高齢者が所属する自主活動グループ「ぬくもりの会」の皆さんを招き、クリスマスイベントを開催しました。

約一年かけてJDRトヨタの皆さんと企画を検討。お年寄りが対象ということで、振り込め詐欺に関する寸劇や、ハンドマッサージ、ネイル磨きなどを行いました。「今日の日を楽しみに頑張ってきたよ」という声もありました。自分の小さな行いがある人の生きがいになっていくと知り、感慨深かったです。人とつながっていると感じられる場の提供が、世代の違いに関わらず大切なことだとわかりました。

交流文化学部2年 鈴木 紗英



環境 愛知県設楽町 段戸国有林の森林整備

連携先：中日森友隊



除伐したスギの木と共に

設楽町にある人工林「中日森友隊の森」を訪れ、森に残す木の選木と、除伐作業を行いました。

正直「木を除去するなんて、自然破壊なのでは!?!」と思いつつ、設楽町へ向かいました。しかし、「日本の人工林の木」を切ることは決して自然破壊ではないこと、勘違いであることを、丁寧に説明してもらって、森林に対する考え方が変わりました。

次回もこのようなボランティアがあったらぜひ参加して、今回学んだことを思う存分活かし、もっとみんなに森林に興味を持ってもらえるよう伝えていきたいと思っています。

人間情報学部2年 安藤 かさね



まちづくり & 青少年 モリコロパーク 雪まつり

連携先：雪まつり実行委員会



まつり当日の様子

2013年度から3年間、雪まつりのボランティアリーダーを務め、何百人というボランティアと出会いました。

「ボランティアを楽しませる」、それがボランティアリーダーとして与えられた最大の任務でした。一人一人の好みや性格、ボランティア動機はバラバラで、一言に「楽しませる」と言っても、簡単にはいきませんでした。

失敗も多かった中、最後に「楽しかった」と言ってボランティアが帰ってくる度に、「やっていたよよかった!」と心から思いました。

健康医療科学部4年 望月 雄斗



(2) 学生団体などによる自主活動の支援

多くの学生が、ボランティア活動への「参加」に留まらず、社会貢献をテーマに自主的に活動しています。

2015年度からは、CCCを基盤に自主活動を行っている学生団体を「CCC学生団体」とする、登録制度を設けました。その数は現在、約20団体。そのほとんどが、学生のみではなく、地域の市民団体・福祉施設・企業等と連携して活動しています。

CCC学生団体にはスタッフがアドバイザーとして就き、活動の「伴走者」としてサポートするほか、中間報告書と最終報告書を共に作成し、支え合いながら活動を改善・継続できる仕組みを構築しました。



イベントに向けてのミーティング



活動報告会

参加者の声

私は福祉分野ではない学部にも所属していて、手話には全く関心がありませんでした。

しかし、サークルの先輩に連れられて参加したところ、二人が楽しく教えてくれて、手話の意味やジェスチャーの面白さに、あっという間に虜になってしまいました。

(メディアプロデュース学部3年)

ですが、みんなが笑顔で手話を教え合っている姿を見ると、本当に嬉しく思います。さらに、参加した学生たちから友だちや家族に手話を広めてもらい、聴覚障がい者の存在や文化をより身近に感じてもらうたいいと思います。2016年度からは、フリートークの時間も設けて、手話で自由にワイワイおしゃべりできたらと考えています。

メディア
プロデュース学部1年
畑 菜々子



福祉貢献学部
3年
浅野 祥子



自主活動

手話 de ランチ



2人でCCCを訪れた時、活動休止中の「手話 de ランチ」の存在を知りました。本学には手話を学ぶ授業やサークルがありますが、もっと気軽に手話に触れてもらいたい、活動の再始動を決意しました。

「先生」という立場で学生や手話と向きあう中で、「人に何かを教えること」の難しさを感じることもあり



CCC学生団体

ういるく (with-walk)



私たちは、東日本大震災の影響で愛知県に引越してきた子どもたちと、愛知県に住む子どもたちが繋がるきっかけづくりを目的に、毎年夏にキャンプを行っています。

今年度は子どもたちに防災の意識を持ってもらうため、レクリエーションに「防災クイズ」や「防災カルタ」「バケツリレー」を取り入れました。これは初めての試みでしたが、保護者から「震災が風化してきている今、このように防災意識を持たせる企画はとても良い。震災を忘れず何かしようとする若者がいることが嬉しい」と大変好評でした。

保護者との対話を通して、改めて私たちの震災への認識・知識不足を感じました。今後は学習機会を増やし、自分たちに何ができるのか、何をすべきかを話し合っていきたいです。

文学部3年
丹羽 杏紗



CCC学生団体

ESD みつけ隊



私は、2014年に愛知県で開催された「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」に関わり、多くのことを学びました。その学びを活かすべく、夏休みの2日間、日進市の小学生を対象に、「(E) いろんな (S) せかいに (D) でかけよう」と題した、

世界と自然環境について体験型で学んでもらうプログラムを実施しました。

子どもたちからは終了後「弟にも今回のことを話してみる」「カブトムシがいっぱいの町にしたい」「良い町をつくりたい」などの声が聞かれました。今回のプログラムを通して、子どもたちが今まで無かった価値観に気が付き、視野を広げることができたと考えています。参加した子どもたちが、今回の学びを通して、これからの持続可能な社会への貢献に役立つ人材になることを期待します。

交流文化学部4年
浅野 有香



連携先・日進市役所市民協働課
岡田 剛 様の声

■「ういるく」の活動について

愛知県へ避難してきている子どもたちと日進市の子どもたちが楽しく交流し、友情を育むことができました。

また、子どもたちが楽しく交流することを通して、保護者の心のケアにも貢献したと思います。今後、更なる震災支援活動に期待したいです。

■「ESDみつけ隊」の活動について

子どもたちにとって取付きにくい「ESD」について、年齢がそれほど離れていない学生たちが、他の大人たち(里山リーダー会、市役所職員等)と連携して、熱心に伝えたことで、多くの気づきをもたらしてくれました。本事業を通して、子どもたちの街への愛着を育み、世代を超えて大事なことや普遍的なこと、守っていかなければならないことが伝わったと思います。

(3) 【学内助成事業】チャレンジファンド

CCCでは、学生によるさまざまな自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや思いに応える活動や、社会的に意義の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て、資金面での助成を行っています。

2015年度は、「スタートアップ部門(助成額上限5万円)」、「一般部門(助成額上限



10万円)」、に加え、本学開学110周年記念として「環境部門(助成額上限10万円)」を特別に設置。公開プレゼンテーション及び学内の教員たちによる審査の結果、15団体が採択され、それぞれの活動を展開しました。

2015年度チャレンジファンド採択団体一覧

	団体名	活動内容	主な連携先
スタートアップ部門	すーみるきい	笠寺商店街活性化のため、観光資源の宣伝やイベントを開催する	かんでら monzen 亭
	にじいろあーす	県内在住のフィリピン人児童への日本語指導や、多文化理解を広める	国際子ども学校
一般部門	生きている図書館準備委員会	マイノリティの人などとの対話を通し、多文化共生を目指す	
	共同料理なごやか	孤食など食生活の改善、多世代にわたる繋がり、地元野菜のPR	三ヶ峯元気会
	Fsus4	高齢者や障がい者施設での演奏や交流を通して、相互に理解を深める	社会福祉法人愛知たいようの杜、森孝しぜんかん
	☆キャンウィンドアンサンブル	相互参加型の演奏を通して、世代間交流を図り、コミュニケーションを活性化させる	あいちけんこうプラザ
	大学祭実行委員会	工作イベントを通して、三世代交流を図り、地域活性化に繋げる	千種区老人クラブ連合会、名古屋市立星ヶ丘小学校
	コミュカフェ	住民の交流を深め、災害時などに助け合える地域をつくる	レスパイトハウス やさしいところ
	アミーゴ	県内の外国人児童を対象に多読活動、学習支援、就学前指導に取り組む	西尾市教育委員会
	ちびっこクローバース	子どものまちづくりイベントを通じて、子どもの自主性や協調性を育む	
	travelD	外国人観光客のニーズに合った地図を作成し、リピーターを増やし、商店街や街の活性化を目指す	円頓寺商店街
	ボランティアサークル あじゅあす	地域住民への障がい者・高齢者への理解の拡大と、住民同士の繋がり強化を目指す	社会福祉法人ポレポレ、オーネストひびの大宝
環境部門	ASU element project	小学校での英語授業のサポート、英語を楽しむイベントや日米間での手紙交換プロジェクトを通して、子どもの英語学習へのモチベーションを上げる	長久手市教育委員会、長久手市市が洞児童館
	エコのつばみ	環境啓発活動に加え、里山保全活動を支援するため、竹炭消臭剤を商品化・販売する	美浜町竹林整備事業化協議会
	アウトドアレストラン	農家の方に生産物をプレゼンテーションしてもらったり、食をテーマにしたイベントを企画・実施する	愛知県内の農家

2015年度採択プロジェクトのうち、2団体の活動を報告します。

アウトドアレストラン「The farm house」

「農家の方々の思いを消費者に届ける」これが私たちの活動の目的です。

本企画では、①農家の方々のプレゼンテーション、②農家の方々が生産した食材の試食、③私たちが事前に農家の方々にインタビューを行って制作したパンフレットの配布を行いました。

このイベントの一番の成果は、実際に食材の購入にも繋げることができた点だと考えます。参加者に「この農家さんのこの食材を食べたい、買いたい」と思っていたことができたこと、また、イベント終了後に農家の方々に直接話しかけている参加者の姿があったことが、とても嬉しかったです。このように少しでもありますが、私たちの活動により農家と消費者の繋がりをつくることができました。

これまで2回イベントを行ってきて、農家の方々と消費者の交流の場は貴重で、食への興味・関心の拡



2016年1月23日 第2回の様子

大に有効だということがわかりました。また、一人でも多くの人に農家の方々の思いを届けるために活動回数を増やしたいです。そのためにも所属メンバーを増やし、今まで以上に積極的に企画に取り組みたいです。

交流文化学部3年
横地 梨紗



にじいろあーす「多文化共生プロジェクト ～強くなる世界～」

愛知県内には日本語が理解できず、日本の学校へ通えない外国人児童が多います。言語や文化的背景の違いによって生じる、子どもたちの孤立を無くすために、何かできることはないか。そう考えた私たちは、愛知県尾張旭市にある「国際子ども学校」を訪問し、日本の小学校に入学する前の子どもたちを対象に、日本語や日本の遊びについて教えることにしました。

2015年度は、子どもたち一人一人の日本語能力の確認や、自分の名前や私たちの名前を書く練習をしてもらったり、ハロウィンパーティーを行いました。

この活動を通して気付いたことは「チャレンジすれば、気付きや新しい価値観が手に入ること」です。当初は、興味本位で始めたボランティアでしたが、新しい人との関わりの中で、数えきれない発見を得ました。日本で育つ外国人の成長を心から応援したいと感じ



2015年10月30日 国際子ども学校訪問

たし、子どもたちに対するの偏見が無くなれば、世界はもっと強くなるのではないかと感じました。

今後も、異なる考えを共有し課題に対して取り組むことの重要性を大切にしながら、活動していきたいです。

ビジネス学部3年
松井 彩



4 学生スタッフの活動

CCCは、さまざまな思いを持った多くの学生が集まる場所となっています。学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の思いを形にする重要な役割を担っています。

「学部はどこ?」「ボランティアは初めて?」などの会話から、一人一人の個性を活かし、新たなチカラを共に発見するお手伝いをしています。

また、ボランティア紹介業務だけでなく、自ら企画なども行い、自分たちの活動の幅を広げています。



星が丘キャンパス

写真左上から、時計回りに

- 西山 典佑 (ビジネス学部4年)
- 飯田 諒子 (交流文化学部3年)
- 鈴木 彩香 (交流文化学部3年)
- 工藤 大輝 (ビジネス学部4年)
- 藤本 涼子 (交流文化学部4年)
- 望月 智加 (交流文化学部4年)



長久手キャンパス

写真左上から、時計回りに

- 安藤 佑哉 (人間情報学部4年)
- 松岡 咲希 (福祉貢献学部4年)
- 石塚 千夏 (文学部3年)
- 水飼由香莉 (心理学部3年)
- 浅井 里美 (福祉貢献学部3年)
- 磯村 絵里 (福祉貢献学部4年)



2015年度の主な活動

日付	行事名	日付	行事名
4/9	新入生歓迎フェスティバル	11/14	名古屋市主催「ぼらマッチ」ワークショップ実施
7/5	㈱デンソー主催「デンソーグループハートフルまつり」ブース出展	11/15	「長久手市市内一斉防災訓練」ブース出展
10/8・19	CCC利用説明会	11/30	交流会「しゃべりバ!」
10/10	CCC主催「コラボメッセージ」企画・進行	12/1~11	CCCパネル展
11/8	日進市主催「産業まつり」ブース出展	2016/1/13	講演会「未来の自分をデザインしよう」

ccc. 学生スタッフとして活動して

学生スタッフは普段、両キャンパスのCCCにて、同じ学生目線で「ボランティアに参加したい!いろいろなことにチャレンジしたい!」という学生の相談に乗ったり、背中を押したりしています。

特に、初めてのボランティア参加を迷っていた学生が、私と話したことで参加を決めてくれたり、時間があれば何度もCCCに立ち寄ってくれるようになったときは、とても嬉しい気持ちになります。

また、ボランティアに参加した学生が、嬉しそうにその時の話をしてくれると、自分の心も満たされると同時に、「私も活動を頑張ろう」と思えます。

学生たちといろいろな気持ちを共有できる「学生スタッフ」という役目を務めることができ、とても幸せです。



長久手キャンパスCCCにて

福祉貢献学部3年 浅井 里美

ccc. 長久手市 市内一斉防災訓練

私たちは小学生向けに、正しい避難行動を伝える「防災クイズ」と、必要な防災グッズを選ぶ「非常用持出袋づくり体験」を行いました。

「防災クイズ」では実際に災害が起こった際にとるべき行動を2択のクイズにしました。子どもたちが楽しそうに取り組んでくれただけでなく、ご両親も真剣な表情で私たちの話に耳を傾けてくださり、防災活動の大切さを感じました。

「非常用持出袋づくり体験」では、非常食やペットボトル飲料水など実際に必要な物を選んでもらいリュックに入れてもらいました。「重いね」、「こんなに必要なんだ!」などの声があがり、楽しみながら学んでもらえたと感じました。



2015年11月15日(日)長久手市立市が洞小学校

今後も、子どもたちが楽しめるような企画を行っていきたいと思います。

交流文化学部3年 飯田 諒子



2015年10月10日 コラボメッセにて

5 センター長より 2015年度 全体講評

コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長 大塚 英揮
(ビジネス学部 教授)

現代は「個人化」が進んでいます。地域の絆、家族の絆、職場の絆…。人と人をつなぐ「絆」の多くが、もろくはかないものになってしまいました。お金を稼ぐことに直結しない活動は「ムダ」とされ、「絆」でつながる他者のために「思い」を込めた行動をすることが軽視されてしまう。器用に生きられなければ、それは全て「自己責任」。あったかいうちに見えて、実は限りなくドライ。そんな「生きにくく、ドライ」な時代であってもなお、「人間らしく生きたい」と思うのであれば、「思いやり」や「情」のある行動をこれまで以上に大事にしなくてはなりません。地域で育ってきた僕らが、地域に恩返しをするのは当然のことです。若い力を地域貢献、社会貢献に活かすためのプラットフォームとしてCCCは誕生、2016年9月で10周年を迎えます。

10周年を前に、2015年度は、様々な制度改革に取り組んで参りました。CCCをベースに展開される、学生の地域貢献活動の質を向上させることを目的として、①企画力やまちづくりの知識習得など、スキルアップを促す内容をCCC開設科目として新たに追加、②学生団体をCCCスタッフが支援する「アドバイザー制度」の導入、といった2つの改革を実施。履修者数の増加、学生団体の活動の質向上といった成果をあげつつあります。

また、地域の皆様とCCC、そして地域の皆様と学生との間で結ばれた「絆」をより深めることを目的に、「コラボメッセ」をスタート。連携団体と学生団体との間で新たな連携企画が誕生するなどの成果をあげました。

今後も、CCCで学ぶ学生が楽しく活動に参加し、大きく成長できるよう、そして地域の皆様と学生団体との関係をより深めていけるよう、本学の教育方針である「伝統は立ち止まらない」の精神で走り続けます。

これまで多くの学生が地域での活動に主体的にチャレンジするようになりました。学生たちに貴重な学びの場をご提供いただいた地域の皆様、企業、団体、行政の皆様には、深い感謝の念でいっぱいです。いつも本当にありがとうございます。そして今後ともご指導、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



6 当センターへ初めてボランティアを 依頼いただく方へ

当センターでは、ボランティア募集情報の取り扱いについて、「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を基本としています。

ボランティアを募集される場合は、まず以下をご確認いただき、お電話でご連絡ください。

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター ボランティア情報の取り扱いに関する方針

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター（以下、「CCC」と表記します）では、以下の方針に基づき、NPO/NGO、民間団体等（以下、「団体」と表記します）のボランティア情報（地域・市民活動）を紹介します

1 対象となるボランティア活動

- ① 公益性・公共性が高い活動
- ② 営利を目的としない活動
- ③ 受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った活動
- ④ その他

・団体例は、次の通りです。

ボランティア民間団体（NPO/NGO）、社会福祉法人、学校法人、社団法人・財団法人等の非営利法人、社会福祉施設・社会教育施設・その他公共施設、企業など。

2 受付できないボランティア活動

- ① 政治的、宗教的活動を目的とする活動
- ② 危険が伴う活動
- ③ 人体に有害な活動
- ④ 法令に違反する活動
- ⑤ 公序良俗に反する活動
- ⑥ その他、CCC運営委員会の審議の結果により不適当だと判断された活動

3 団体との申し合わせ

団体とCCCとは、以下の点を申し合わせ事項とさせていただきます。

- ① ボランティア活動に参加する学生に対し、各団体が活動内容や条件等を提示し、その内容について両者間で合意の上、活動を始めることとします。
- ② 活動をはじめる前には、各団体がオリエンテーション、研修等を実施し、必要な情報や留意点をあらかじめ伝達することとします。

③ ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととします。

④ ボランティア活動に参加する学生は、あらかじめボランティア保険に加入していることを両者で確認することとします。本学学生がボランティア活動を行った際に、募集の条件と異なる状況が生じた場合、精神的、肉体的苦痛を受けた場合等には、CCCが活動先と調整、苦情申し出等の対応をいたします。

4 免責

CCCで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、CCCでは責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

2015年度 CCC運営委員

- 委員長 大塚 英揮 (ビジネス学部)
- 天野 成昭 (人間情報学部)
- 清瀧 裕子 (心理学部)
- 久保 田 絢 (ビジネス学部)
- 黒川 文子 (福祉貢献学部)
- 小島 祥美 (文学部)
- 志村 栄二 (健康医療科学部)
- 宮田 雅子 (メディアプロデュース学部)
- 若松 孝司 (交流文化学部)
- 金 治 宏 (コミュニティ・コラボレーションセンター)
- 小早川 真衣子 (コミュニティ・コラボレーションセンター)
- 和田 恭治 (コミュニティ・コラボレーションセンター 事務室長)

スタッフ

- 長久手キャンパス
岩瀬 彰子
蓮見 真紀子
脇田 夏貴
- 星が丘キャンパス
秋田 有加里
今井 里香
杉浦 暁子